

# コロナ禍で感染者が増えている梅毒

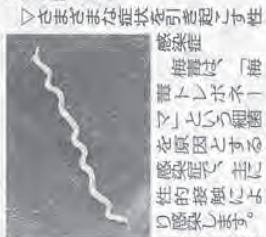
県感染症情報センター

## 声なき感染症を知る ◆93◆

新型コロナウイルスの流行でマスク着用などの感染対策が強化され、インフルエンザなどの感染症が減少傾向にある中、梅毒感染者数は増加傾向にあります。今回は、梅毒についてお話しします。

▽さまざまな症状を引き起こす性感染症

梅毒は、感染してから3〜6週間の潜伏期間ののち、感染が起きた部位(主に



梅毒の感染によるさまざまな症状の一例。皮膚に赤い発疹が現れる。この発疹は、感染から3〜6週間の潜伏期間ののち、感染が起きた部位(主に

顔面、口唇、口内、肛門等)に現れ、かゆみや、それを放棄すると手のひら、足の裏、体全体に広がるように赤い発疹(ほこし)が特徴ですが、無症状や、認知症、難聴

に陥るリスクも高まっています。一度梅毒に感染しても、感染を防ぐ方法は確立できないので、リスクを減らすには再感染する可能性があります。

▽コロナ禍で都市部中心に増加

1948年以降、梅毒患者数は減少傾向でしたが、2010年以降増加に転じ、2018年には700例近くの症例が報告されました。その後、いつの間にか減少傾向がみられました。ところが、昨年(2021年)1月〜12月までの週報値(1ヶ月)が、全国的に増加しており、特に東京や大阪、その周辺域が

増加の報告が多いです。

▽感染の中心は若者

感染者は特に20〜30代の若者、20代の女性を中心としており、男女ともに異性間性交渉が主要な感染経路です。

また、診断した医師が保健医(専

## 都市部の若者中心に 新たな治療薬が承認

出する用紙(発出)においては、リスク行動も多数見られる。既往歴や過去の感染歴(発症歴)を確認し、そのうえで、リスク行動を特に感染予防に努めます。

▽治療に感染を予防に悪影響

発症後は、妊娠の有無の確認も行なっています。妊娠中の母体への適切な感染予防、妊婦感染防止の観点から、公衆衛生上、重点的に対策を講じます。妊婦が感染すると、胎児に感染して先天性梅毒、流産、死産や、目や口の障害を引き起こす先天性梅毒発症する可能性があります。

先天性梅毒発症を予防するには、梅毒スクリーニング検査を妊婦健診の推奨が重要であり、妊婦中に少しでも心当たりや変わった症状があった際の、積極的な診断検査が勧められます。

▽適切な感染予防と早期治療が重要

感染予防の観点として、性感染症に対する感染予防薬の欠如、性風俗やデリヘルを利用した不特定多数との性交渉などが考えられています。梅毒予防には、コンドームの使用が有効です。ただし、コンドームが覆われない部位などに感染が起れば、例えは安全コンドームでも感染

があります。

皮膚に腫れや発疹がみられる場合は、性的接触を控えて、早めに医療機関を受診しましょう。さらなる予防のためにも、医療機関では早期診断、早期治療、パートナーの検査や検査を勧めることが重要です。

また、HIVやクラミジアなどの性感染症の感染リスクが高く、複数の性感染症に感染することもあるため、他の性感染症の検査も勧められます。

▽新たな治療薬が承認

2021年9月に、早期梅毒の世界的な標準治療薬である初回注射薬剤の、国内での製造販売が承認されました。これまで飲み薬や点滴で数週間の治療が必要だった、服薬遵守にによる治療効果がデメリットでしたが、この筋肉注射薬剤では、梅毒の中で最も患者数が多い、感染から1年以上の早期梅毒に対して、1回投与の治療効果が期待できること、これまで海外で梅毒患者の治療に貢献してきた実績があること、これまで報告された副作用はごく軽微なものであり、例えは安全コンドームでも感染

# 冬に流行する感染性胃腸炎

県感染症情報センター

## 声なき感染症を知る ◆94◆

感染性胃腸炎は、毎年冬に流行のピークがあり、今年も例年通り流行しています。今回は感染性胃腸炎の特徴や気を付けること、感染対策についてお話しします。

▽ウイルスや細菌などが原因

感染性胃腸炎は、ウイルスや細菌などの微生物による「嘔吐(おとこ)下痢」を主な症状とする感染症です。原因の多くはノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスで、毎年秋から冬にかけて流行します。人から人の感染は、接触感染が主な感染経路となります。

(生肉)の喫食はなるべく避け、加熱するお話しします。

▽感染経路に注意

胃腸炎に二重に気を付けるのは、口にはウイルスや細菌、口の周りや立

ちやカラカラなどの乾燥臭は腸菌から発生するため、乾燥した衣類は洗濯や乾燥機をかけた後、口や鼻を近づけないでください。経口補水液は薬局などで販売されており、スポーツドリンクよりも電解質が多く、糖質は少ないので、脱水から回復するのにも効果的です。

▽ロタウイルスワクチン

感染性胃腸炎の予防の第一は、手洗

## 水分補給し脱水防ぐ 手洗いで感染対策を

ちやみ、ひやみなど乾燥臭が起きることもあります。特に乳幼児や高齢者は、脱水が低年齢化しやすいため、こまめに水分を補給し、脱水を防ぐことが大切です。

治療としては、細菌性の場合には抗生薬を使用することがありますが、基本的には脱水にならないように水分補給することが重要です。

▽経口補水液で水分補給

ただし、下痢は水分以外にナトリウムや電解質などの成分が豊富であるため、経口補水液は、脱水を防ぐのに効果的です。

い物品の消毒といった感染対策であり、治療は症状に合わせて処置が基本となります。

ただし、乳幼児や高齢者、脱水の急性胃腸炎の重症者など、原因とされるロタウイルスに対しては、重症化予防効果のあるロタウイルスワクチンがあり、2022年1月からは、乳児は生後6ヶ月から、無症状で接種できます。

ロタウイルスは、種類が2種類あり、口から飲むタイプのロタウイルス。2回

接種のものと一回接種のものがあり、別々に接種です。ワクチン接種は、ロタウイルス胃腸炎による入院患者を減少させることが期待されています。

▽感染対策は手洗いと消毒が重要

感染性胃腸炎の原因となるノロウイルスやロタウイルスは、アルコールで分岐できない殻に包まれている構造をしているので、アルコール消毒の効果は低いです。一方、インフルエンザウイルスや新型コロナウイルスでは脂質の膜なので、アルコールにより殺菌

は、アルコールではなく、石鹸(せっけん)と流水による洗浄が有効です。特に爪の間指先は洗剤が回りやすいので念入りに洗いましょう。

また、塩素系漂白剤(例:ハイター)もロタウイルスやノロウイルスに有効ですが、皮膚に対する刺激性が強いため、手指の消毒ではなく、汚染された物の消毒に使うことにしましょう。

▽食中毒と感染性胃腸炎の区別

時々、食品や食器などの食事に由来する食中毒の症状と感染性胃腸炎の症状が似ていますが、これについて少しお話しします。食中毒は、医師が食中毒と診断した場合は、診断

手洗い・消毒は、感染性胃腸炎の予防の第一歩です。

ロタウイルスワクチン接種の予約のため、手洗いを徹底して清潔に保ち、感染予防に努めましょう。

ロタウイルスワクチン接種の予約は、保健所や指定の医療機関で行ってください。

ロタウイルスワクチン接種の予約は、保健所や指定の医療機関で行ってください。

ロタウイルスワクチン接種の予約は、保健所や指定の医療機関で行ってください。

しは、必ずしも診断以前に発生するとは限りません。また、食中毒は、食中毒の発生から24時間以内(食中毒)に発生するものと、食中毒の発生から24時間以上(食中毒)に発生するものとがあります。

また、食中毒は、食中毒の発生から24時間以内(食中毒)に発生するものと、食中毒の発生から24時間以上(食中毒)に発生するものとがあります。

また、食中毒は、食中毒の発生から24時間以内(食中毒)に発生するものと、食中毒の発生から24時間以上(食中毒)に発生するものとがあります。

### 新興感染症と再興感染症

県感染症情報センター

## 声なき感染症を知る

◆96◆

「新型コロナウイルス感染症」(COVID-19)、「エボラ出血熱」(エボラウイルス感染症)、「マダガスカル熱」(マダガスカル熱ウイルス感染症)、「新型コロナウイルス感染症」(新型コロナウイルス感染症)の流行が、世界を巻き起こし、大きな問題となっています。今回は、新興感染症と再興感染症の現状について、お話しします。

△コロナは再興感染症か  
コロナは、世界を巻き起こし、大きな問題となっています。今回は、新興感染症と再興感染症の現状について、お話しします。

「新型コロナウイルス感染症」(COVID-19)、「エボラ出血熱」(エボラウイルス感染症)、「マダガスカル熱」(マダガスカル熱ウイルス感染症)、「新型コロナウイルス感染症」(新型コロナウイルス感染症)の流行が、世界を巻き起こし、大きな問題となっています。今回は、新興感染症と再興感染症の現状について、お話しします。

「新型コロナウイルス感染症」(COVID-19)、「エボラ出血熱」(エボラウイルス感染症)、「マダガスカル熱」(マダガスカル熱ウイルス感染症)、「新型コロナウイルス感染症」(新型コロナウイルス感染症)の流行が、世界を巻き起こし、大きな問題となっています。今回は、新興感染症と再興感染症の現状について、お話しします。

## 世界各地で発生報告 新たな脅威へ対策を

△新型コロナウイルス感染症  
新型コロナウイルス感染症は、世界各地で発生報告されています。新たな脅威へ対策を講じる必要があります。

「新型コロナウイルス感染症」(COVID-19)、「エボラ出血熱」(エボラウイルス感染症)、「マダガスカル熱」(マダガスカル熱ウイルス感染症)、「新型コロナウイルス感染症」(新型コロナウイルス感染症)の流行が、世界を巻き起こし、大きな問題となっています。今回は、新興感染症と再興感染症の現状について、お話しします。



新型コロナウイルス感染症の予防策として、マスクの着用が推奨されています。

「新型コロナウイルス感染症」(COVID-19)、「エボラ出血熱」(エボラウイルス感染症)、「マダガスカル熱」(マダガスカル熱ウイルス感染症)、「新型コロナウイルス感染症」(新型コロナウイルス感染症)の流行が、世界を巻き起こし、大きな問題となっています。今回は、新興感染症と再興感染症の現状について、お話しします。

### 抗微生物薬

県感染症情報センター

## 声なき感染症を知る

◆95◆

「新型コロナウイルス感染症」(COVID-19)、「エボラ出血熱」(エボラウイルス感染症)、「マダガスカル熱」(マダガスカル熱ウイルス感染症)、「新型コロナウイルス感染症」(新型コロナウイルス感染症)の流行が、世界を巻き起こし、大きな問題となっています。今回は、新興感染症と再興感染症の現状について、お話しします。

「新型コロナウイルス感染症」(COVID-19)、「エボラ出血熱」(エボラウイルス感染症)、「マダガスカル熱」(マダガスカル熱ウイルス感染症)、「新型コロナウイルス感染症」(新型コロナウイルス感染症)の流行が、世界を巻き起こし、大きな問題となっています。今回は、新興感染症と再興感染症の現状について、お話しします。

「新型コロナウイルス感染症」(COVID-19)、「エボラ出血熱」(エボラウイルス感染症)、「マダガスカル熱」(マダガスカル熱ウイルス感染症)、「新型コロナウイルス感染症」(新型コロナウイルス感染症)の流行が、世界を巻き起こし、大きな問題となっています。今回は、新興感染症と再興感染症の現状について、お話しします。

「新型コロナウイルス感染症」(COVID-19)、「エボラ出血熱」(エボラウイルス感染症)、「マダガスカル熱」(マダガスカル熱ウイルス感染症)、「新型コロナウイルス感染症」(新型コロナウイルス感染症)の流行が、世界を巻き起こし、大きな問題となっています。今回は、新興感染症と再興感染症の現状について、お話しします。

## 偶然見つかることも 適正使用で耐性対策

△新型コロナウイルス感染症  
新型コロナウイルス感染症は、世界各地で発生報告されています。新たな脅威へ対策を講じる必要があります。

「新型コロナウイルス感染症」(COVID-19)、「エボラ出血熱」(エボラウイルス感染症)、「マダガスカル熱」(マダガスカル熱ウイルス感染症)、「新型コロナウイルス感染症」(新型コロナウイルス感染症)の流行が、世界を巻き起こし、大きな問題となっています。今回は、新興感染症と再興感染症の現状について、お話しします。



「新型コロナウイルス感染症」(COVID-19)、「エボラ出血熱」(エボラウイルス感染症)、「マダガスカル熱」(マダガスカル熱ウイルス感染症)、「新型コロナウイルス感染症」(新型コロナウイルス感染症)の流行が、世界を巻き起こし、大きな問題となっています。今回は、新興感染症と再興感染症の現状について、お話しします。